

平成29年度授業改善推進プラン【数学】

〔教科の観点〕

- ①数学への関心・意欲・態度 ②数学的な見方や考え方
 ③数学的な表現・処理 ④数量、図形などについての知識・理解

教科	生徒の実態と分析	指導上の課題	授業改善の視点と方策
1年	<p>○全体的に意欲が高く、学習に前向きであるが、集中が長続きしない。また、基礎の定着が十分でない。要因として、小学校での丁寧な指導によって授業規律が定着しているが、基礎の定着に十分な時間の確保が難しかったのではないかと推測される。</p> <p>○積極的に自分の考えを発表する生徒が多いが、他者の意見もしっかり聞いて理解を深めることは難しい。</p>	<p>○簡単な四則計算や分数・位取りなど、数学の基礎的な数値の扱いが定着していないので、週4時間のうちの1時間を演習中心の復習の時間として理解の定着を図る工夫を1学期間行ったが、まだ十分ではない。</p> <p>○3～4人のグループでの活動で、互いの考えを聞き合う活動を行っても、理解が深まり難い。</p>	<p>○基礎的な事項の定着のために、夏休みの宿題にドリル形式の演習問題を設定し、補習授業も行った。その定着や理解度を夏休み明けのテストで確認し、2学期以降の授業の重点を決め復習事項の徹底を図る。</p> <p>○授業では、対話的な活動を多く取り入れ、個人や全体の理解度を高めていく。</p>
2年	<p>○全体的に意欲的に取り組んでいる。少人数での授業展開を行うことで、生徒一人一人の理解力も高まっているように感じる。</p> <p>○意見や考え方を深める交流については、より一層の工夫や充実が必要である。</p> <p>○習熟度の状況に応じて、同じ学習内容であっても考え方の交流が深まるように発問やワークシートを作成するなど工夫する必要がある。</p>	<p>○習熟度別の学級編成は、下位クラスの基礎学力の向上につながっている。</p> <p>○どのコースにおいても、ねらいを明確にし、話し合い活動を入れることで、考え方を深めることができている。</p> <p>○短期的な定着は図れているが、長期的な学力として定着させることが課題である。</p>	<p>○プリント、ワークシートやノートを細かく点検することで、個々の理解度の把握により一層行う。</p> <p>○授業では、対話的な活動を多く取り入れ、個人や全体の理解度を高めていく。</p>
3年	<p>○授業にしっかり集中し、意欲的に取り組む生徒は前年度より上昇し、全体の約95%を占めている。苦手意識の強い生徒も普通の授業に前向きに取り組んでいることは、習熟度別の指導の成果と考えられる。</p> <p>○授業のねらいを明確にすることで、生徒は安心して学習に取り組むことができている。</p> <p>○既習事項を活用して問題を解いたり、意見や考え方を深める交流については、より一層充実させる必要がある。</p>	<p>○1クラス3展開での実施により、より生徒の実態に即した授業展開を実施することができている。発展コースについては、既習事項の振り返りや難易度の高い問題を行う時間も生まれた。</p> <p>○基礎コースにおいては、知識や表現力が十分に定着していない生徒が多いので、交流の場を設けても意見や考え方の交換にまで至らないことが多かった。</p> <p>○発展コースにおいては、個々の演習の時間を多く取り入れたため、意見交流の機会が少なかった。</p>	<p>○基礎コースにおいては既習事項を活用して一つの問題を全員で解くといった、共同作業での問題解決型授業を実施した。その際、既習事項の復習も実施した。</p> <p>○発展コースにおいては、既習事項の確実な定着のために、授業の始めに確認プリントを行い、生徒の理解度を把握した。</p> <p>○3学期初旬には、進路実現に向けた受験対策の問題演習を実施する。理解不足の内容については、その都度振り返り、復習を行わせる。</p>